

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、皆さん方同様に19番山口の一般質問を始めさせていただきます。

きょうの朝一番で、上野議員が一般質問をされましたけれども、そのときは後ろのほうで傍聴者がたくさんお見えで、「頼むけんが私のときも1人ないとんおってくんしゃいね」とお願いをされましたけれども、無駄でした。今の私の一般質問に向かう気持ちとしては、今外で雪が降っていますけれども、あのように気持ちの中、心の中は真っ白でございます。そういうことで、執行部の腹も真っ白でございます。執行部の方も、簡潔に御答弁をいただきたいと思います。

私は、市長の4年間で振り返ってということで質問を出しておりますけれども、まず、市長に4年間で振り返っての今の気持ちをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

振り返ってみますと、もう無我夢中で市政を預らせていただいたということに尽きます。私が市長にならせてもらったときというのは、本当に率直に言って、18年間武雄を離れていましたので、ああ、元気がないなということは思っていました。その元気の源に火をつけて、それをさらに武雄のポテンシャルティーを生かして伸ばしていくということと、もう1つが、やっぱり弱い立場にある方々が、武雄に住んでよかった、あるいは生まれてよかった、お嫁に来てよかったと言ってくれるような市政にしたいということで、本当に振り返る間もなく、この4年を迎えたなあというのが実感であります。

もとより、がとない部分があります。それはおしかりを受けながら、あるいは御批判も賜りながら進めてまいりましたけれども、一度たりとして、自分のためにということで思ったことは1回もありません。これだけは胸を張って言えることだと思えます。あくまでも、市民の皆様方のために、将来を担う市民の皆様方のために市政運営をしてきたということ、これは、これだけは私はどなたに対しても胸を張って言えることだというふうに思いますが、ただ、いかんせん、至らぬ部分も多々ありましたので、その面で御不便や御迷惑をおかけしたということは、私の人間的なまだ未熟さのあらわれだと思っていますので、それは直して、また市政運営をしていきたいなというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

今いろいろお話をさせていただきましたけれども、私の気持ちの中では及第点かなと、私は

思っております。

まず、質問に入りますけれども、まず1点目は2月27日に、これはNHKのニュースだったと思いますけれども、「市民病院移譲で住民監査請求が提出された」と。これはあくまでもNHKのニュースだったと思うんですけど、その代表者は城島さんだそうで、この方は天神区の区長さんだそうですが、天神区の区長さんということは、武雄市の駐在員さんですよ、どうですか。どなたか答えられますか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

そうでございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

駐在員さんということは、武雄市から40万円、手当と言ったら失礼ですけども、出しているわけでしょう。それに話を聞けば戸数割が入っているわけでしょう。天神区の戸数割をちょっと調べさせていただきましたけれども、175戸、1軒当たり2,380円。これを合計しますと41万6,500円、トータル81万6,500円というお金をもらっておられるわけですね。そういうふうな方が代表者として、住民監査請求の代表者としてなれるのかどうか、その辺のところどなたかお答えできますか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

住民監査請求につきましては、何人とも監査請求できるということにはなっております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

ということだそうです。

それでは本題に入りますけれども、1番目、土地、建物を不当な単価で販売をした。2、民間移譲決定後に新たな医療機器などを購入して、無償で貸し付けている、この2点で出されているんですけども、これが新聞とテレビであったときに、私のほうにも問い合わせ等々がありました。ほんなことやということで問い合わせがっておりますので、その辺について市長、詳しく答弁をお願いしたいんですけど。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは平野議員様にもお答えした答弁になりますけれども、病院事業に適用される地方公営企業法では、法第40条に地方自治法の適用除外規定があります。その中で、地方公営企業の業務に関する契約の締結並びに財産の取得、管理及び処分については、条例または議会の議決によることを要しないとされていることから、土地、建物等売買契約を初めとする上記の契約について、事件決議議案として議会の議決に付してはおりません。これが前提であります。この法第33条に地方公営企業の用に供する資産の取得、管理処分は管理者が行うこと、そして、資産のうち、その種類及び金額について政令に定める基準により条例で定める重要なものの取得及び処分については、予算で定めなければならないとされています。

武雄市も法治国家であります、法治市であります。このため、重要な資産の処分として、土地、建物、建築物の処分にかかる予算を平成21年度当初予算へ計上し、21年3月議会で可決をしています。土地、建物等売買代金については、平成20年10月1日と移譲直近平成21年11月1日時点での不動産鑑定士の算定をもとに確定をしております。そのため、最終的な売買代金3億8,905万円については、21年12月議会の予算審議で御審議の上、可決をされています。

医療機器等の購入についても、当初予算、補正予算等の審議の中で十分議論を尽くされ可決されたものであります。すなわち、議会の予算審議を経た上で決まっておる。不動産鑑定価格も第三者の不動産鑑定士が入って、この額が望ましいということで、それを我々は受けて出しているものであり、何らこれで不公正であるとか、非中立であるという非難には当たらないと認識をしています。

さらに、医療機器等資産の無償貸し付けにつきましては、平成20年5月臨時会で可決された武雄市立武雄市民病院の移譲に伴う特別措置に関する条例の第3条に、移譲に伴う資産の譲渡又は貸し付けの特例として条文に明記をしています。これを根拠として、新病院が新築移転するまでの期間については、無償貸し付けの契約を締結しております。契約について、議会の議決を経ているのは、地方公営企業法第40条、冒頭に申し上げた規定に基づくものであります。したがって、これも議会の議決を経ています。

さらに、昨年12月議会の黒岩議員からの一般質問の中で、新しい病院ができるまでは、市民の皆様のために医療機器は無償貸与すべきではないか、最後にお金の計算をしてよいのではないか、医療をこのまま続けるべきではないのかという御質問、御意見をいただきまして、私としても、黒岩議員と考え方を同じくするものという答弁をしております。

この医療機器の問題については、ことし1月20日開催の市民病院問題調査特別委員会でも、本年2月以降の医療機器の取り扱いについて、慎重に御審議をいただいたところであり、その中で、新病院が新築移転するまでの間、継続して市民の医療を守っていく立場から、今

ある医療機器等の無償貸し付けの方針も御理解をしていただき、私はその報告を受けて、あわせて意思決定をしたところであります。すなわち、これについては、条例あるいは予算、議会の特別委員会での審議、幅広い意見をいただきまして、私もNHKのニュースで、城島さんという方が出されたということで見ましたけれども、その中に首長の市長の裁量権の逸脱だということがありましたけれども、首長の裁量権というのは議会で決まります。議会の中で決まったその枠内で、どういうふうにしようかということがありますので、私としては、このNHKのニュースしか私は知りませんけれども、全くその批判は当たらないと。

あわせて、さきの、その後のNHKのニュースで、この一般質問で平野議員の御質問の後の私の見解が出ましたけれども、その場でもテロップに誠心誠意進めてきたということ、そして何ら問題はないということで、NHKさんにおかれましては、再三報道もされておりますので、これに対する批判ということは、私はそれ以降はもう耳に入ってこず、もうあのNHKのニュースでよくわかったということで私は一安堵をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

これはあくまで私の気持ちなんですけれども、例えば3億9,000万円土地、建物を譲渡したと。私に言わせれば、よう3億9,000万円も金を出して、あの土地を、建物を買ったなど。借りとったら、新しい病院ができたときには固定資産税も何も払わんでよかわけですね。今の病院を買った部分をこうして皆さん——皆さん方って、担当者をお願いをして、「大体固定資産税はどんくらいぐらいもらわるとや」と聞きよったら、「土地、建物で、大体年間500万円ぐらいもらえるやろう」と。あの古いて言うたらおかしいですけど、今の病院ですね。あれを固定資産税は500万円もらった上に3億9,000万円を買ってもらった。何が問題あるのか不思議でならんです。

それと、医療機器を無償で貸すと、無償で貸しているという部分なんですけれども、特別委員会の中で提出をしていただきましたけれども、ないだけ見しゅうごとなしや、我々にとっては字の見えんとですよ、こめえして。そいぎ眼鏡ばかりかけてこうして見よつぎ、757品目の医療機器かれこれがあるわけですね、この中で757品目。その757品目の中の653品目、耐用年数切れとつとです。一番ひどかとは、耐用年数5年で書いてあつとに対して、もう36年8カ月過ぎとつとのある。それだって、5%はちゃんと金の載つとつたですね、帳簿価格で。そいぎ、もう大体勘定するぎ約1年以内に耐用年数がなくなるの、要するに来年新しい病院ができるときに耐用年数がなくなるものも入れたら、あと残り50品目ぐらいしかなかとですよ、実際。

1日目やったですかね、平野議員の質問は。その1日目に平野議員も一生懸命助け船ば出

しよんさっばってん、なかなか乗ってもらえじ、その平野さんも、ちょっとかゆいところに手の届かんような顔してから質問をしよんさったですけれども、まあいずれにしても、残るのは50品目ぐらいしかなかとですね。その50品目の中で今度は、これは私の考えですよ、持っていかれん分のあるとですね。もし、すべてを買うとして、持っていかれん品目の十ぐらいあつとですよ。そいぎあと残りは幾らか、40品目ぐらいですね。

そして、値段の高かぎ高かほど、例えば5,000万円の機械があったとする。そいぎ耐用年数5年とするでしょう。そいぎ、1年に1,000万円ずつ下がっていくわけですよ。そうなれば、なか頭を一生懸命になってこう考えたぎ、よう考えたぎ、何も1億円も幾らもありゃせんわけですよ、考えたら。そいぎ、そこで1億円もなかくらいの機械器具を、そこまでいろいろ言ってまで、その住民監査請求をしてまでしなければいけないのかなと私は思っております。

これはけさの話ですけれども、新武雄病院に行く用事が私にはありましたので、新武雄病院に行ってきました。そいぎ、救急車が2台とまっとったわけですよ、救急車が2台。そいぎ、何かお年寄りの方のようでしたけれども、その中でやっぱり心配そうに家族がおんさつ中でいろいろは聞かれんけん、「救急車、どこから来た」とだけは聞きました。そいぎ「武雄と多久」て言われました。そのときに私とその心配そうな家族の方を見て思ったこと、それは、人の命を守るためにこの医療機器を無償で貸したのがなぜいかんかとやろかと。人の命と医療機器とどっちが大事なのか。武雄市民の命と、この40か50の医療機器とどっちが大事なのか、その辺のところについて、市長答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう全くおっしゃるとおりだと本当に思います。それで、私も何もそれを無償で渡したとかというのは一言も言っていないんですね。この議会でも何度となく、病院が移るときに、その使った減価償却分まで含めて、そこで決算をするというふうに申し上げているんですね。なぜこのタイミングで、しかも実際医療が行われている、一生懸命今、新武雄病院に2月1日からなって、一生懸命スタッフの皆さん頑張っています。その中でなぜ住民監査請求が起きたのかということについては、私は多くを語ろうとは思いません。しかし、この一般質問の場を見られている市民の方々がどのように考えてられるのか、この市民の皆さんたちの意見に私は耳を澄ませていきたいというふうに思っています。

もとより、そういう器具の話も大事な話です、大事な話。これがないがしろにするとか、そういう意味ではありません。しかしそのタイミングというのはあります。それよりも、今そこにある命を助ける、私はそういう思いで新武雄病院に期待をしたいと思っておりますし、事務的にはそういうふうにサポートをしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにしても、市民の皆様方の命を守るため、今後も新武雄病院が一丸となって頑張っていただけのもとの確信をしております。

次の質問に移ります。

次の質問は、樋渡商店の3大目玉商品を検証してみたいと思います。私は今回、3大目玉商品の検証を、市民の目で、我々のこの市民の目で検証をしてみたい。

まず第1点目、「がばいばあちゃん」。この「がばいばあちゃん」の第2弾、果たして2匹目のドジョウがいたのかどうか、御答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

2匹目のドジョウはいました。視聴率が武雄市で80%を超し、83.2%、佐賀県内で61.1%、そして全国的に見ても非常に高い視聴率、ドラマ部門の中では同時間帯では断トツのトップだったといったことから勘案すると、樋渡商店——私、商店じゃないんですけど、御心配をいただいたと思うんですね、このチラシは。そういう温かい気持ちだったと思いますので、それは私も温かく、2匹目のドジョウはおりましたということで、これを今度第3弾に結びつけていく。市民の皆さんたちも今度第3弾いつロケがあるのとか、いつ放映されるのという、もう次に進んでいますので、そういうお気持ちにまた耳を澄ませてまいりたいと、このように考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

これは（資料を示す）先ほどの上田議員の分の「週間文春」の記事の中を、上田議員に了解を得てパクリましたけれども、「優しいお湯のあふれる温泉地武雄、がばいばあちゃんたちも健在だ」で。「週間文春」で書いてあっですね。1月21日号。「がばいばあちゃん」でテレビも健在やった。そしてこの作家の下重暁子さん、それから先ほどの嵐山光三郎さんですか、この人たちもそう思っておられるんですよ。

そして、ここで1つ皆さん方にちょっと御紹介をしたいんですけども、市長と武雄市の東川登町で市政報告会をしたときに、まず永野の例をちょっと言ってみたくて、永野でそいばしながら話をしよったら、「おいおい、ちょっと来てんさい」。何やらかにかやと思って、「あのさあ、山口県に行ったもの。金子みすゞ記念館におどん行ったとさ」と。

そいぎそこで私のごと佐賀弁でしゃべんさっけん、そいぎあんたたちはどっからのまいては言いんさらんやったろばってん、「あなたたちはどちらからですかて聞かした。そいぎ武雄ですからですよ」、「ああ、がばいばあちゃんのとこね」て。そこまではよかったとですよ、がばいばあちゃんのとこねて。あんまり褒みゅうごとなかとばってんが、「その市長さんは若かとてやろう。一生懸命頑張りよんさってやろう。よか市長さんば持ってよかったねて」、ここまで言うてくんさった。これは私が言うたとやなかです。そのみすゞ記念館に勤めよんさっ人が言われた。

そいで、今度はその次の日の次の日か、私東川登の袴野というところに行って、市長と市政報告会をしたときに、永野でこうこうこうしてみすゞ記念館につて言いよったぎ、「うんさい」と言わすわけですよ。「ちょうど私もそんなときおったとよ」て。その人は女の人やった。「私もそいは聞いた」と。何で武雄市の市民の皆さん方、温かい目で見てもらえんとやろうかと私は思うんですね。

よう考えれば、「がばいばあちゃん」、レモングラス、イノシシ、この3つは樋渡市長が市長に就任して以来、ここにデータもらっていますけれども、562の議案が提出をされているわけです。その中の「がばいばあちゃん」とレモングラスとイノシシ、この3つでしょう。言いかえれば562分の3なんですよ。あとの残りはそいぎどかんすつと。あとの残りも一生懸命なつてしとうでしょう、ですね。そいじゃ、ここば言うつとであればですよ、固定資産税ば今度4月から下ぐつとも言わんばいかんでしよう。なして重箱の隅ばつづくごたつことばせんばらんですか。もっと温かい目で見つとが市民じゃなかですかね。私はそう思うつとですけれども。

レモングラスだつてしかりです。何じゃい、このごろ、レモングラスというのは、大学の先生がほんにいろんなことに効くとかという話をされているようすけれども、レモングラスだつてそう。いのしし課だつて、さっき上田議員のほうからイノシシの話があつたすね、パトロールの話。1つは紹介しましょうか。

イノシシのパトロールしよつとき、うちのおやじの話で恐縮なんすけれども、うちのおやじは93歳すね。うちの裏にイノシシが来るわけですよ。裏は学校ですよ。そして西のほうは水路なんですよ。水路2メートルぐらいの水路なんです、ここ飛び越えてイノシシが来るわけすね。このおやじがどこに電話したかというといのしし課に電話したとでしようね。そいぎ、イノシシパトロールをしている方2人がすぐ来てくんさつたと。そうしてその方たちが何をしてくれたか。あの猟友会の方に連絡をして、イノシシわなばかけてくんさいて。そしてイノシシわなをかけてくんさつたばってん、とれんやったです。さすがイノシシも頭のよかごたつにゃとは思つたすけれども。そういうことで少しでも被害を早目にとめようという努力は、言えばちゃんとしてもらえるんですよ。無駄じゃないんですね。そういうことで、何でもつと気持ちを大きくして温かい目で見てもらえないのかなと、そういうふうな

ことを思えば本当に寂しいですよ。

そしてもう1点。次、その3大目玉商品の検証ばて書いてあるその横に「ワンマン市政からみんなの市政」て書きちゃっつですね。この10の重点公約を発表と。10個検証ばすっぎにや時間のなかけんが、初めから3つだけいきます。

固定資産税と公共料金を引き下げます。固定資産税、水道料金、給食費、その他の公共料金の引き下げを検討。今、武雄市はどうされていますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

固定資産税については、ことしの4月から1.55を1.48に引き下げてまいります。水道料金につきましては、2年前の4月から平均十数%下げております。したがって、もうこれ以上引き下げとなると財源が見当たりません。そういった意味で目いっぱい――宮本議員よろしいでしょうか、目いっぱい下げているところであります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

まだほかにも子どもの就学前の医療費の無料化したですかね、でしょう。

そしてもう1点、もう2点か。次が副市長のうち1名を女性にします。今副市長1名ですね。ということは副市長をもう1名ふやしますということですね、でしょう。そいぎ、その副市長、そしてもう1人の男性副市長は市内の人材を登用しますて書いてある、ですね。古賀副市長には本当にすみません、中身をちょこっただけ触れさせていただきますけれども、退職金まで入れたら4年間で約5,000万円ぐらい要るわけですよ、副市長さんば1人置くぎですね。こここのところ覚えとってくれんばいかんですよ、4年間で約5,000万円ですね。

そして、3点目の市長の退職金ゼロにしますとあっつですね。この市長の退職金ゼロにしますというこの問題で、その中に何て書いてあるかという、市長の退職金は約2,000万円です。市内の民間会社と比較して破格の多さですて書きちゃっつですね。そいぎ、この方は県庁の職員さんやったですね。県庁の職員さんの退職金な、どんくらいやろうかにゃと思っつあっちこっち、つてを回りながらお尋ねをしました。そしたら、約3,000万円強、三千四、五百万円ぐらいはあるとやなかろうかて、あの偉か人たちの退職金はという話なんですね。これも覚えとってくださいよ、三千四、五百万円ということですね。

私に言わせれば、その退職金が民間よりも余りにも多かけんが、私は要らんけんがというて、県庁時代にそいば断つとんさいないば、こいも納得できます、ですね。そいぎにゃ、市長の退職金をゼロにします。私は退職金ば1回もろうたけんが、2回目は要りませんよて言

いよんさつとですか。それでも、さっき言うたごと覚えとってくださいよ言うた部分、副市長さんばもう1名ふやせば5,000万円要る。市長の退職金が約2,000万円強で書いてある。その差は3,000万円なんですよ。そいぎ、その3,000万円という金、先般の一般質問の折に23番議員、無駄を省いてほしいと言いよんさつたですね。無駄ば省かんばいかん。武雄市は財政が厳しいから、23番議員も無駄は省きなさいと言いよんさつ。前田議員も厳しい財政で言い、（発言する者あり）13番議員も厳しい財政だから無駄を省いてほしいと言われた。そしたら、この3,000万円というのは無駄じゃないんですか。答弁できますか。（発言する者あり）何か答弁し切らんとか言いよんさつけんがよかです。

いずれにしても、無駄を省こうという気持ちはみんな一緒なんですよ。そういう中で、せめてこういうふうなどを書くのであれば、もう少し考えてほしいな、せめて武雄市の財政を考慮しながら書いてほしいなと思っております。

どうろ答弁をもらえんごたっけん、次の質問に行きます。

何じゃい、検証の中でいろいろ言っておりますけれども、次の質問は、またこれT氏のことでですね、後援会の事務所開きのときに、後援会の副会長さん、名前はようわからんけん読み切らんですけれども、田崎何とかさんの副会長さんのあいさつの中——なし私がこいば知っとうかというぎ、うちの子どもいわく、「樋渡市長の話も聞いた。ばってんT氏の話も聞かんばわからんやろもん。市長の話じゃなかけど、多聞第一。ほかん人の話も聞かんばいかん」ということで、うちの子どもも勉強のために行きました。そういう中で話があった中に、「市長が足を机の上に上げて職員さんを叱責していたという発言のあった」、うちの子どもが帰って来てからそがん言うた。こい、真実かどうかで聞くとときにはどなたに聞けばいいのかな。言うた本人、よろしく申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この話を私も間接的に伺ったときには本当に心を痛めました。もとより、事実がある話でそれに批判をいただくということであれば、私も改善のしようがありますけれども、全くそういう事実がないわけですね。

それで私は検証をしてみました。明くる朝、机の上に足を——だれもおんされんときですよ、市長室1人のときに上げてしたときに、もった時間たった3秒です。なぜか。いすの下にころころのあっわけですよ、ころころの。そいぎ物理的にもあり得んわけですね。ですので、本当にこれは心を痛めて、何でこういうことを事務所開きの際におっしゃる必要があるのかということについて、本当に私は重ねてでありますけれども、小さい心を痛めました。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

あいさつの中で、市長が足を上げて職員さんを怒りよったという話になっておりますけれども、そしたらこい、あつてないことを言ったということは、今まさに事務所開きですから、選挙管理委員会としてはどのように考えていますか。

○議長（杉原豊喜君）

大宅選挙管理委員会事務局長

○大宅選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

御質問の事務所開きのあいさつの中で、市長の職員に対する態度について発言を行ったという事実につきましては、当該の方については認めておられます。発言は足を投げ出して職員をしかるようなリーダーは要らないというふうな旨の内容でございます。

議員の質問に係る規定といたしましては、事務所開きのあいさつの中で言及された内容が事実無根であるとするならば、公職選挙法第235条の2項の虚偽事項の公表罪が考えられます。虚偽事項の公表につきましては、買収行為、あるいは選挙の自由妨害などとともに、選挙員の公益性な判断を誤らせる原因となるということで、選挙の自由公正を害するところが大きいというようなことで規定が設けられております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

もしですよ、もし私とその立場やったら、私は気が小さいですから言い切らんけんが、私は警察に告訴すつですよ。相手方さんには言い切らんけん、私やったら。市長どうですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに、これは機微にわたりますので、慎重に言葉を選んで答弁をいたしますけれども、告訴については、非公式に勧められました。さまざまところから勧められて、ただ思ったのは、これをもし私が告訴をして当該の方が、例えば警察で取り調べ等が行われるということになった場合に、私は負の効果が大きいと思いました。というのも、武雄はもともと政争のまちだということを言われていて、これに私がそういうレベルで乗っかっていくと、ますます政争のまちのイメージが悪化、固定化するといったことは私はどうしても避けたい。したがって、私は言葉は憎みますけど、人は憎みません。そういう思いで、ぜひ後援会の——私もこれは公にも認められているということで私も伺いましたので、そのおっしゃられた後援会副会長の田崎さんにこの場をかりてお願いがあるんですけれども、ぜひその、言い方悪いんですけれども、そういった文言をおっしゃって、ある意味、ありもしないことをおっし

やる、これはありもしないことをおっしゃるということは誹謗中傷です。そういったことを言うエネルギーを、ぜひ政策、自分たちは、あるいは私はこういうまちにしたい、こういう北方にしたい、武雄にしたいということをぜひおっしゃっていただければと。やはり、私は画家だと聞いていますその方は。やっぱり人間には絵心が必要であります。その絵心を、ぜひこういうまちにしたいということで、ぜひそのエネルギーを転化をしていただければありがたいというふうに思います。私の気持ちは、言葉は憎みますけど、人は憎みません。そういったことで私の答弁にかえさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

議長が私の顔をにやっと見て、うん、こううなずく。まあいずれにしても、こういうふうな話が出るということは、市長の気の緩みがあったからではないかと思うわけですね。昔から言うてある、火のなかところに煙は立たん。しかし、今回はたまたま火のないところに煙が立ったんですね。ということは、市長に気の緩みがどこかにあったのではないかと。今後このようなことを、誹謗中傷を二度とされないように気を引き締めていってもらいたいと思います。

では、次行きます。

大体ここ企業立地課ですけれども、ここまでどうするかな、行くみやあかな、行こうかなと考えながら、時間がありますので、企業立地課をちょっと。

市長の就任以来、4年がたちます。その4年間の中で、工業団地のほうに来るよ、来るよと言いながら来んやったり、あるいは厳しい状況ですから、もうしばらく待ってくださいと言われてたりということで、いろいろあっております。この4年間を検証する上で、企業誘致の状況が現在どうなっているのかをお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事。

○伊藤営業部理事〔登壇〕

時系列で少しお答えをしたいと思いますというふうに思います。

まず、就任以来平成19年3月、これはSUMCO関連の半導体メーカーでありますエピクルーが武雄工業団地に進出をするということで協定を結びましたけれども、その後の経済危機で建設が中断をして、今、親会社の動向を見ている状況にあります。来年度からになると思いますけれども、平成20年5月、若木の工業団地に、あと残り1ヘクタールということで、新たな工業地が欲しいということで、県と市の共同開発によって、宮裾地区のほうに工業団地を着手するというのを決定していただいて現在進行中でございます。

それと、上田議員の御質問にありましたとおり、平成21年4月に保養村にリジョイスが進

出をし、ことしの4月1日にグランドオープンという運びでございます。雇用の関係につきましては、市長のほうから答弁をしたところでございます。

21年6月、武雄の川良地区に、SUMCOの独身寮が江北町のほうにありましたけれども、これの建てかえの機に武雄市のほうが動きまして、これの誘致を行い、現在100戸、ですから100部屋でございますので、すべて埋まっている状況下にあります。

また、市長答弁にもありましたとおり、御存じのとおりでございますけれども、新病院の建設用地の裏っかわには、看護学校及びリハビリテーションの学校があっている状況であります。

ほか、さまざまな問い合わせについてはありましたけれども、まだ実現に至っていないという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

新武雄病院で約500人雇用、そいで何か生徒さんが242人。これは市長、ずうっと今まで寮は敷地内じゃなし、どこじゃい家ば建てたしやあしよらすもんねという話をされていますよね、市長が。こいは、病院の理事長さんとか蒲池会長に話ば聞くぎ何て言いんさっかというぎ、こう言いんさっわけです。「病院の見ゆつとこに看護師さんの寮とか先生の寮ば建つぎ、ストレスのたまる」。こいは何かて言うぎ、ごつとい病院ば見よるわけでしょうが。そいぎ、ストレスのたまって言いんさっわけです。「そいけん病院の見えんとこに寮ば建てんばいかんと」、そがん言わした。ああ、なるほどにやあて。がんこと言うぎいかんでしょけれど、ある人のポスターを私、室内用で家に張つとるわけですよ。そいぎ朝起きて顔見て、帰ってから面見つぎ、ぐあいの悪かごとあつ。そいと一緒なんですよ、ですね。そいけんが、やっぱり寮も、もっとほかんとけつくらんばいかんと言わすとはその辺なんですよ。ということは、もっともっと今から先——こい、そいこそ、まだ学生寮だけの話で、職員さん寮の場合はよそに建てんばいかんとというような話もあっておりますので、もっともっと需要と供給の大きゅうな可能性だっていっぱいあるわけですね。ということは、武雄市が幾らなйтん、ずっと前に栄えていく。マイナス思考じゃなくて、プラス思考でいこうと、それにはやっぱり4月11日の話のあつごたっけんですけんね、お互いに。まあ、そういうことで、その後の結果はどうであれ、武雄市が前の方に一步一步前進ができるような市政を、今後とも我々を含めてやっていきたいなと思っております。

これで終わります、ありがとうございました。